

第1回新しい地方経済・生活環境創生会議 大野市 資料

～ 大野市 地方創生の取組 未来へつなぐまちづくり ～



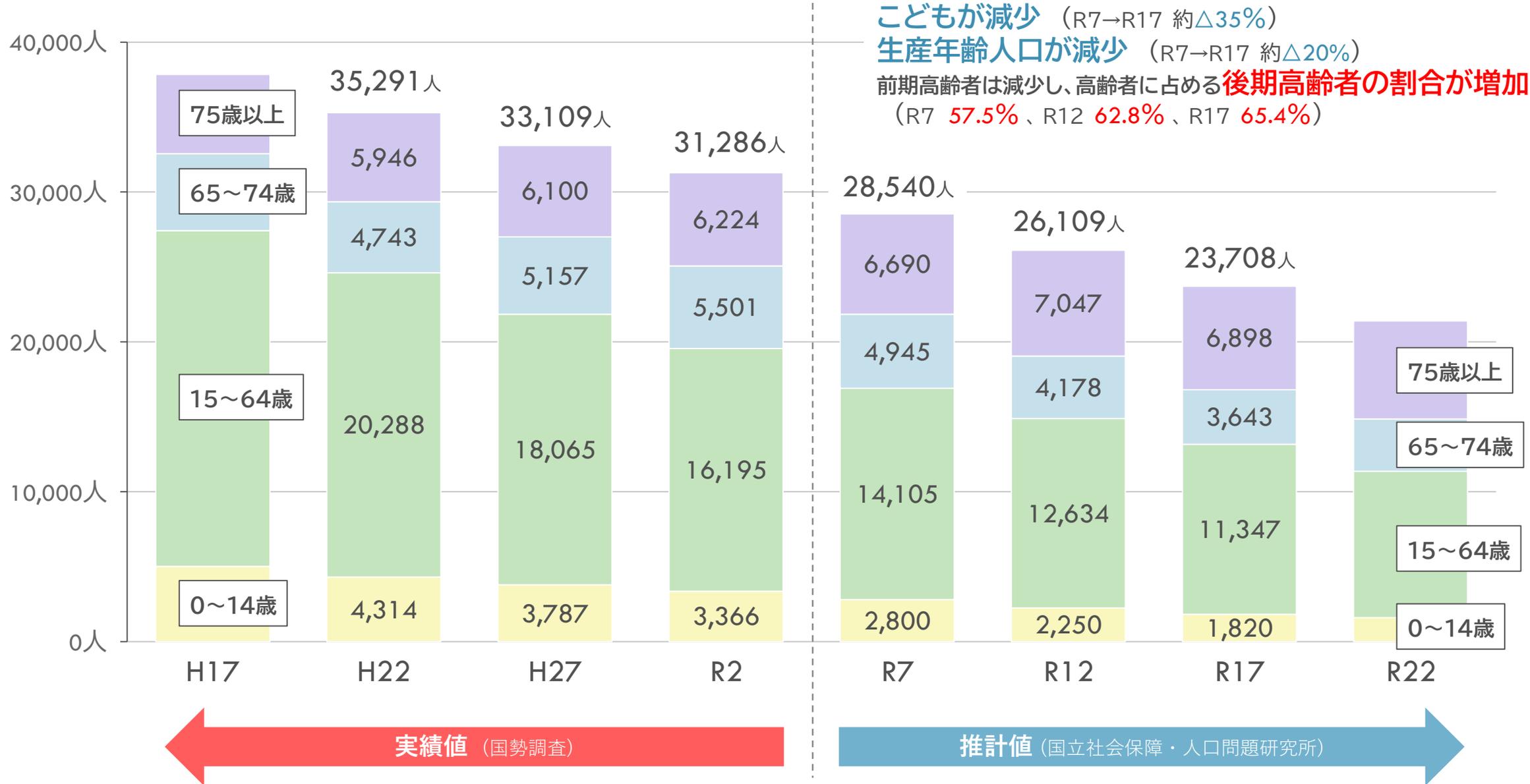
令和6年11月29日



大野市長 石山志保



人 口	29,099人 (R6.5福井県推計人口調査)
面 積	872.43km ² (市域の約87%が森林)
高齢化率	38.9% (R6.4住民基本台帳)
ブランド・キャッチコピー	結の故郷 越前おおの
主な観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本一美しい星空 ● 天空の城 越前大野城 ● 九頭竜 恐竜・化石 ● 北陸最大級の道の駅「越前おおの 荒島の郷」





高速交通網の延伸を活かす地域経済の活性化

健康のまちづくり

 ウォーキング×デジタルで年間医療費を削減

雲海に囲まれ浮かんで見える
天空の城 越前大野城で誘客



中部縦貫自動車道
(令和5年大野IC～九頭竜IC開通)

自然減対策

子育て応援

社会減対策

移住定住支援、 地域おこし協力隊制度の活用

〔昨年度の移住者数は過去最高
地域おこし協力隊は現在8名が活躍〕



移住応援サイト
「大野へかえろう」
(令和4年3月公開)

最適化の視点

小中学校の再編 公共施設の再編

〔中学校 5校 ▶ 2校 (R6.4～)
小学校 9校 ▶ 7校 (R8.4～)〕

担い手確保策

行政サービスのデジタル化 農林業等での脱炭素・デジタル化を推進 担い手確保や資格取得への支援

〔市町村フロントヤード
改革ランキング2024 94位
(時事通信社)〕



ポイントに応じて
商品券がもらえるから
健康づくり事業

2024参加者募集

おおのヘルスウォーキングプログラム

「歩くことは、がん、生活習慣病、認知症の予防やストレス解消等に効果があります。歩いて育てて健康にならしましょう！」

申込期間 令和6年4月1日(月)～5月7日(水)

申込期間 令和6年7月1日(月)～令和7年1月31日(日)まで

参加条件 30歳以上の大野市市民 ※令和7年3月31日現在で満30歳以上

活動費対コース 1,000円
アプリコース 500円

660ポイント 申込多数の場合は抽選
抽選に当たらない方は活動費対コース、申し込み分は参加できません。

2つのコースから選べます！
活動費対コース
アプリコース NEW

年間最大 6,000円相当の
商品と交換できます

0120-771-015

地域課題の解決にデジタルの力を活用

「おおのヘルスウォーキングプログラム」
歩数や健康づくりイベント等への参加に応じて景品
と交換できるポイントを付与し、歩くことから始める
健康づくりを推進するウォーキングプログラム
(令和6年度は市民の1割、2,930人が参加)

人口減少	若年人口	老年人口
第一段階	減少	増加
第二段階	減少	維持・微減
第三段階	減少	減少

人口減少対策は
維持増加策 と **減少適応策**
 両面から総合的に進める

- ◆産業の活性化と働く環境の整備
- ◆子育てしやすい環境整備
- ◆健幸のまちづくり
- ◆移住定住の促進 など

維持増加策

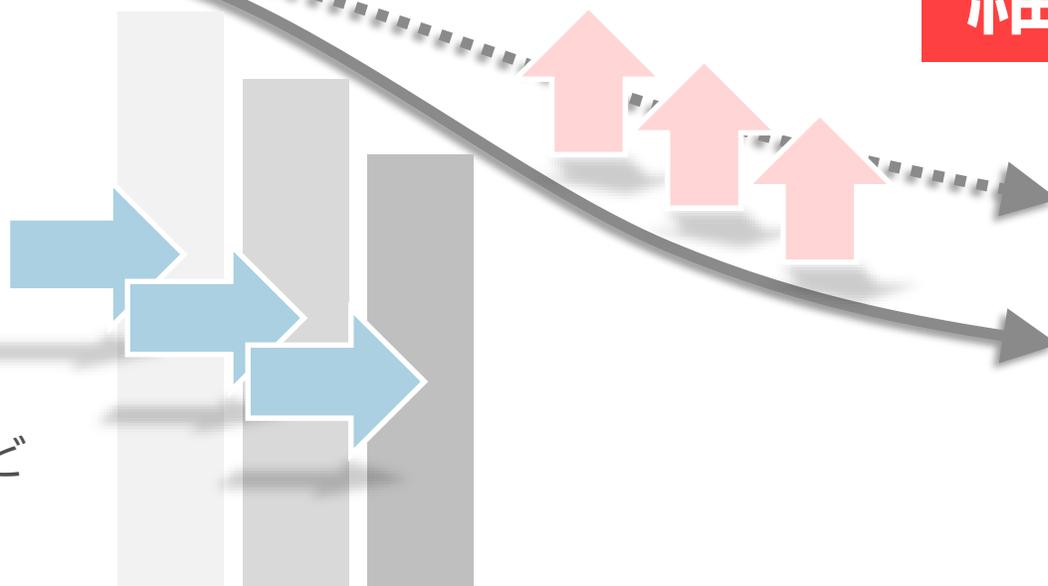
減少適応策

- ◆デジタル化や脱炭素の推進
- ◆協働・連携によるまちづくり
- ◆人生100年時代の人づくり
- ◆小中学校・地域公共交通の再編 など

現在の人口

将来の人口

現在の将来
推計人口





大野市シルバー人材センター
 独自事業の収入が5年連続で全国1位
 (令和元年度～5年度)
 収入の柱は女性を中心とした加工品、
 直売所などの6次産業化の取組みで、
 「女性のチャレンジ支援賞」を受賞



中部縦貫自動車道 荒島ICすぐの
 道の駅「越前おおの 荒島の郷」
 シルバー人材センターも出店

インフラの 充実



中部縦貫自動車道
 (令和5年大野IC～九頭竜IC開通)

女性が活躍しやすい 地域社会づくり



女性経営者との
 意見交換会
 活躍する女性の
 アピールが必要

中部縦貫自動車道
 九頭竜IC近くの
 「より処」の皆さん
 地場産食材で
 ランチを提供



より処 福井県大野市朝日26-1
 時11:00～16:00 ㊿水曜のみ営業

水曜日は臨時休業
 カフェタイムも
 ありますよ!

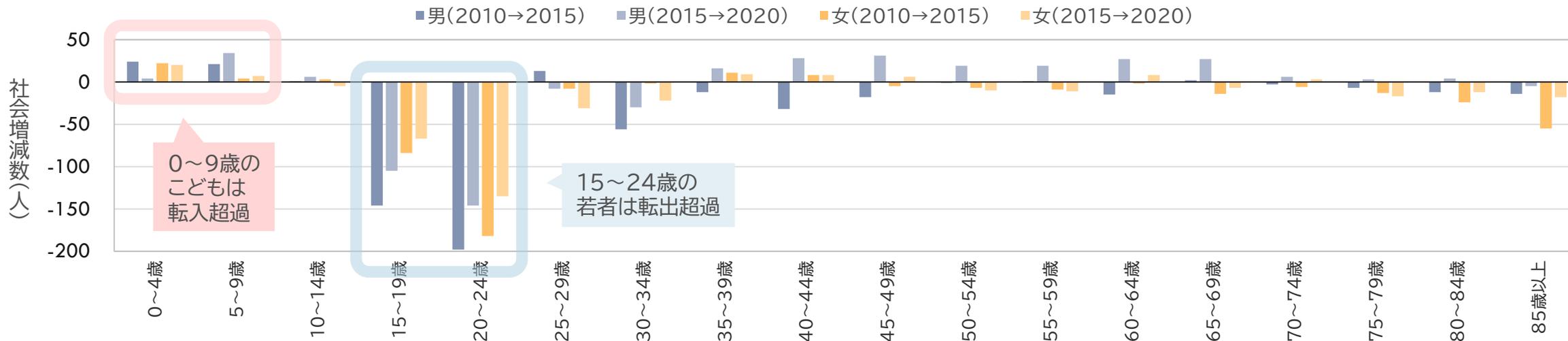


和泉のことなら
 私たちに
 任せてください!

ボランティアスタッフの
 みなさん



■ 社会増減数（年齢階層別/男女別 2010→15/2015→20）



出所：総務省「国勢調査」より作成。備考：5歳未満の社会増減については、出生後に普段住んでいた場所による。（環境省「地域指標分析ツール」分析結果の抜粋）

■ 年間に生まれたこどものうち第3子以上の割合



この10年間の傾向

- 0~9歳のこども(子育て世帯)は流入
- 近年、子を持つ世帯のうち、子を3人以上持つ世帯の割合が増加
- 15~24歳の若者は流出



みんなが、手作りでつくり、 協働し、確認するまちづくり



大野市総合計画・総合戦略推進会議は、市民と「産官学金労言」など21名が一同に介し、総合計画や総合戦略の評価や取組状況の確認、人口ビジョンについて協議
会議は年3回開催、テーマを設けた専門部会も開く

第六次大野市総合計画後期基本計画の策定に向けて協議を行う幹事会のような

推進会議委員らに、市民、市職員が加わり、総勢53名が話し合い総合計画を作成



第六次大野市総合計画 後期基本計画の策定に当たっては、前期基本計画で物差しとしたSDGsやデジタル化の推進、人口の維持増加策や減少適応策に加え、幸せに暮らすことができるまちづくりに向けて、以下3つの視点等を組み入れながら検討を進めている。

ウェルビーイング

市民意識調査の設問や、各施策の検討や評価をしていく上で、市民がより幸せな生活を送ることができるかを測るウェルビーイングの視点を組み入れる

シェアリング エコノミー

施策間や分野を超えた連携、循環型の仕組みを検討していく上で、保有資源を貸し出し、利用者と共有(シェア)する新たな経済の動きで考えるシェアリングエコノミーの視点を組み入れる

ジェンダーギャップの緩和 女性・若者がもっとイキイキと

ジェンダーギャップを緩和しながら、女性や若者をはじめ誰もがもっとイキイキと暮らすことができる社会を目指し、施策を検討する